

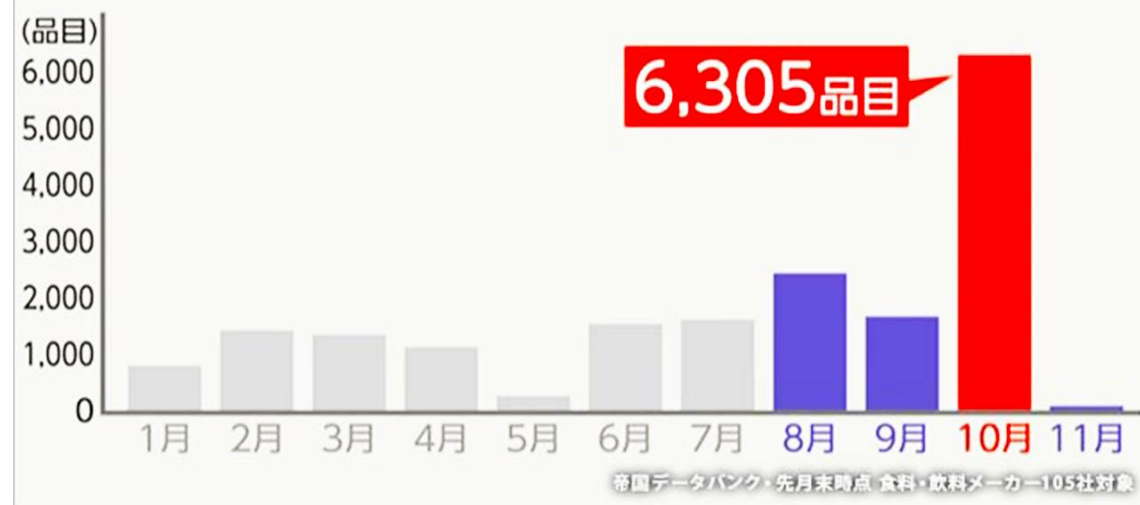
金沢市議会報告

2022/10/1

金沢市議 広田みよ

10月から 物価値上げ+負担増

- ▶ 物価値上げ
- ▶ 10月に値上げを予定している商品が最大の6305品目
- ▶ 8月値上げ品目の2・5倍
- ▶ 今年すでに値上げ・今後値上げが予定されている品目は各社の累計で1万8532品目



▶ 社会保障制度の改悪による負担増

- ▶ 75歳以上の医療費 1割→2割 全国370万人 金沢市 13900人
- ▶ 児童手当の特例給付 (5000円/月) 廃止 全国61万人 金沢市 2900人
- ▶ 大中規模病院での紹介状なし患者の追加負担金アップ 初診時 5千円以上→7千円以上

令和4年9月30日まで		令和4年10月1日から	
区分	医療費負担割合	区分	医療費負担割合
現役並み所得者	3割	現役並み所得者	3割
一般所得者等	1割	一定以上所得のある方	2割
		一般所得者等	1割

被保険者全体の約20%

厚生労働省資料より

住民税非課税世帯や生活保護世帯に 5万円給付されます。

▶ 住民税非課税世帯等 緊急支援給付金

- ▶ 住民税均等割の非課税世帯、家計が急変（減少）した世帯
- ▶ 対象 全国 約1600万世帯 金沢市 約53400世帯
- ▶ 給付額 1世帯当たり 5万円
- ▶ 支給予定 令和4年11月から順次開始

コロナ感染者の保健所での全数把握見直しについて

- ▶ 9/26から、保健所での全数把握はしなくなった
- ▶ 現在公表されているのは、重症リスクのある4分類の方と、ご自身で「陽性者登録」をした方
- ▶ 医療機関のハースへの入力負担が減るとは言うが、経過観察も限定的になり、感染の全体状況がつかめなくなる
- ▶ 抗原検査などで陽性となっても、登録もしていない方、ひどくても支援が受けられていない方もいるかもしれない
- ▶ 保健所を経由せず、突然病院へご相談に来られる陽性者もいらっしゃるかもしれない
- ▶ 全感染者へのフォローアップが課題
- ▶ ちなみに、9/26から入院以外の方に民間の保険適応もなくなった

No.2245 令和4年9月28日 毎週水曜日掲載 石川県広報広聴室 〒920-8580 金沢市親月1

広報いしかわ
Ishikawa Prefecture

石川 10月8日(土) AM7:00~7:30
福井 10月8日(土) AM7:00~7:30
滋賀 10月8日(土) AM7:00~7:30
【石川】10月8日(土) AM7:00~7:30
【福井】10月8日(土) AM7:00~7:30
【滋賀】10月8日(土) AM7:00~7:30

ホームページ <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/> Eメール

—新型コロナウイルス感染症— 検査・療養の流れが変わります!

◎重症化リスクが高い方(65歳以上、入院を要する方、特別な治療が必要な方、妊婦)のみ医療機関から保健所に届け出ることになりました。
◎それ以外の方は、「陽性者登録・フォローアップセンター」の活用をお願いします。

詳しくはこちら

有症状の方 **症状なし/感染不安あり**

医療機関を受診して陽性 **自己検査や無料検査で陽性**

以下の方はこれまでと変更なく、保健所から連絡が入ります。

- ① 65歳以上の方
- ② 入院を要する方
- ③ 重症化リスクがあり特別な治療が必要な方
- ④ 妊婦

保健所で療養支援、健康観察
※必要と認められた方は入院させていただきます。

左記①~④に該当していない方

ご自身で「陽性者登録・フォローアップセンター」へ登録をお願いします。

- 療養支援(同居家族の抗原検査キットの郵送など)
- 健康相談(体調悪化時の相談)

TEL:076(225)1936(9:00~17:45)

療養期間が過ぎたら、ご自身で解除を!

療養期間について詳しくはこちら

オミクロン株(BA.1)対応ワクチン接種が始まります。

- 初回接種(1,2回目接種)を完了した12歳以上の方で最終の接種から5か月以上経過した方が対象です。(詳細は、お住まいの市町にお問い合わせください)
- ※使用するワクチン:ファイザー社(12歳以上)、モデルナ社(18歳以上)
- 10月以降、県の接種会場(いしかわ県民ワクチン接種センター)でも接種できます。
- ※モデルナ社ワクチンを使用しているため、18歳以上の方が対象

詳しくはこちら

【10月31日まで】薬局等で無料検査が受けられます

- 無症状の方が対象です。有症状の方は医療機関を受診ください。

石川県 無料検査 検索

金沢市と統一教会

- ▶ 村山市長との関係はなさそう
 - ▶ 山野前市長は、ピースロードの表敬訪問受け入れ & 「世界日報」インタビュー
 - ▶ 公園等里親事業で、金沢家庭教会と協定 地域住民から見直しの声あがる
 - ▶ 関係団体が雪かきボランティア登録&小学校へのボランティア
-
- ▶ 9月議会で、わが党から「関係をもたないよう」求める
 - ▶ 村山市長
 - ▶ 個人的には、統一協会が好ましいかということ好ましいと思っていない。
 - ▶ 市としては、現在報道等で社会的に問題が指摘されている団体だと認識している。
 - ▶ 国の動向を踏まえながら対応してまいりたい。→はっきりせず。

金沢市議会と統一協会

- ▶ 現在副議長の坂本やすひろ議員が、「世界日報」で称賛されている。
- ▶ 「ピースロード」に、自民党の石川県議・金沢市議が複数関わっている。
- ▶ わが党が高岩議長に「金沢市議会議員の自己調査と公表」を求めるも、「時期尚早」として、やらない。
- ▶ 一方富山市議会は「旧統一教会と関係断ち切る」決議
- ▶ 今後は会派ごとに（1）旧統一教会や関係団体との関係の有無（2）関係があった場合はその内容（3）政務調査活動や政策立案の判断に影響が及んでいないかの調査をし、議会として公表する。
- ▶ 金沢市議会でも引き続き求めていく。



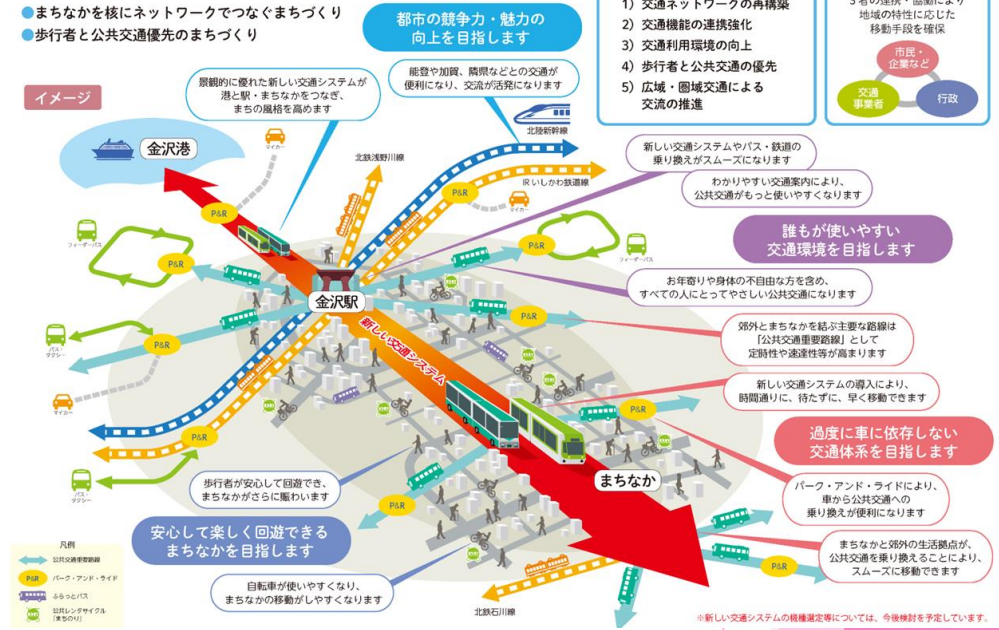
金沢市と国葬

- ▶ 村山市長が、石川県市長会の会長として出席した。
 - ❏ 出席しないよう求めたが。
- ▶ 費用は金沢市から支出→東京往復代金、香典はなし
- ▶ 庁舎内での黙とう呼びかけを当初予定していたが、やめることに。
- ▶ 庁舎関係施設で、日の丸の半旗は行われた。
- ▶ 市立小中高は、半旗も黙とうも行わなかった。

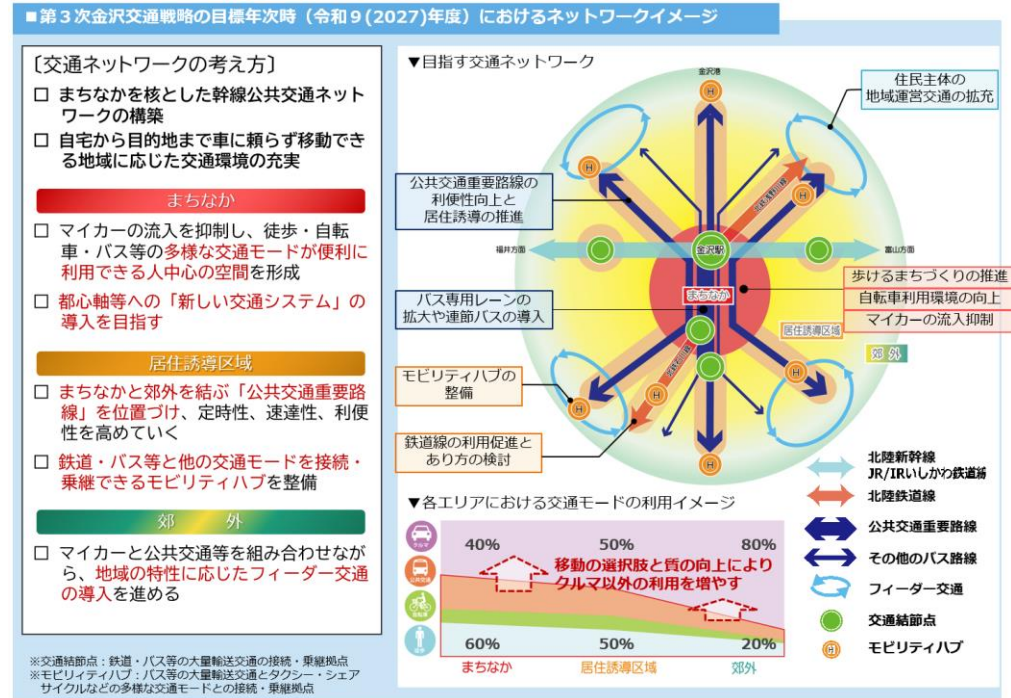


地域公共交通について

「第2次金沢交通戦略」が目指す未来のすがた



- ▶ 現在の計画は「第2次金沢交通戦略」⇒来年度からの「第3次金沢交通戦略」を作っている。
- ▶ 金沢港から有松までの「新しい交通システム」は、LRT/BRTの議論の前に「バスの利便性向上」からということに。
- ▶ まちなかや観光の議論が中心となっているが、居住・郊外地域での公共交通を求めよう
- ▶ ふらっとバスのようなコミュニティ交通の必要性
- ▶ 12月から意見交換会やパブリックコメントもあるのでぜひご参加を！



加齢性難聴と補聴器購入補助について、
みなさんのお声をもとに
9月議会でとりあげました。

まずは調査の過程で、貴重な資料が！

加齢性難聴について

金沢市の取り組みが

紹介された研究を発見！

令和2年度老人保健健康増進等事業

自治体における難聴高齢者の社会参加等に向けた

適切な補聴器利用とその効果に関する研究

令和3年3月

PwC コンサルティング合同会社

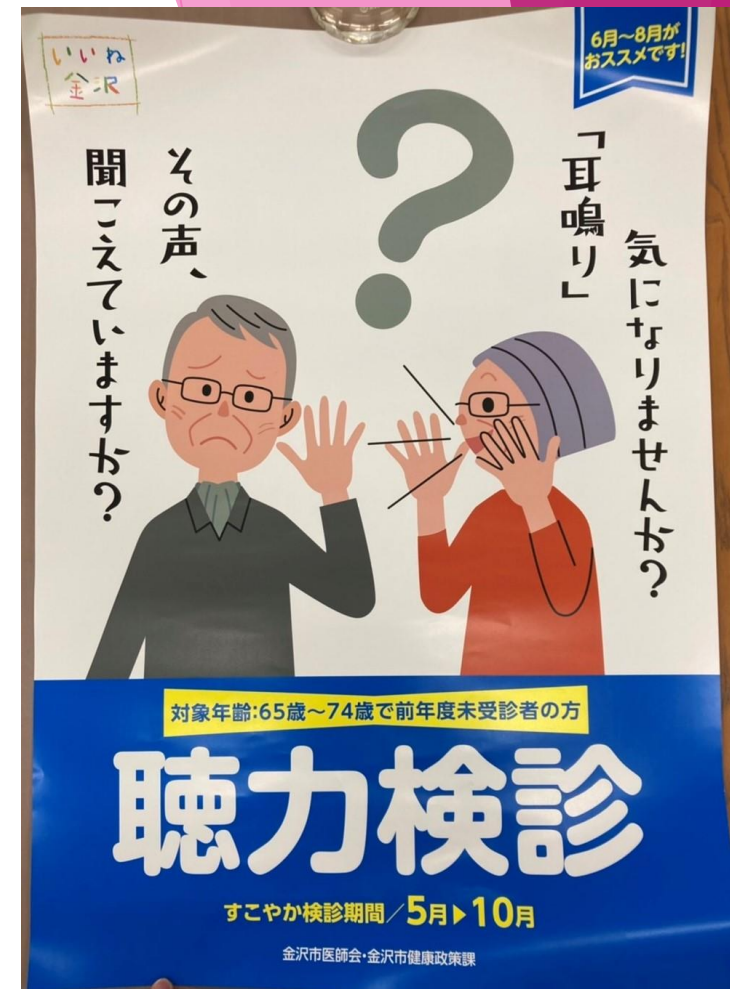
研究では①：聴力検診について

▶ 金沢市は、高齢者（65-74歳）の聴力検診を行っている珍しい自治体である（0.4%）

▶ しかし受診率は3%前後と低い

⇒ 議会で受診率向上を求めたが、市民も積極的に

受けて、難聴の実態をあきらかにすることも必要では？



研究では②：受診後の補聴器装用について

- ▶ 聴力検診のあとも医師がフォローをしているのだが
補聴器の装用が進まない

年度	聴力検診で補聴器の装用 が必要とされた方	そのうち補聴器を 装用した方	割合
2019年度	65名	7名	10.8%
2021年度	90名	11名	12.2%

研究では③：本市が考える今後の課題について

- ▶ 補聴器をつければ生活の質があがるのは確実だが
- ▶ 補聴器購入までのハードルがかなり高い
- ▶ 理由としては、購入価格の問題もある

■今後の課題

- ・聴力検診の受診率は全対象者のうち3%強で推移している。「すこやか検診」の中でもがん検診などに比べると受診率が低い。がんのように生命に直結するというわけではないため、優先度が低くなっているのが要因の一つと考えられる。
- ・聴力検診を実施して約20年近く経過しているが、補聴器装用率は低く、装用率を高めることが課題として認識されている。2019年の実績では、聴力検診を受診し「補聴器の装用が必要」と報告のあった高齢者は65人いる。しかし、実際に補聴器を装用した高齢者は7名（10.8%）にとどまっている。補聴器を装用した人の満足度は7名中7名が「ほぼ満足」と回答しており、補聴器をつければ生活の質が上がるのは確実なのだが、この結果を見る限り補聴器を購入するまでがかなりハードルが高いと見受けられる。
- ・補聴器をつけない理由としては、購入価格の問題もあるが、補聴器に対するイメージもあると考えられる。眼鏡と同様につけていても当たり前な世の中にまだなっていないのではないかと思う。（なお、金沢市では補聴器購入に関する障害者総合福祉法に基づく助成は行っているが、それ以外は行っていない）
- ・隠れ難聴の人（本当は難聴であるが、自分自身が気づいていない人）が多いと考えられるが、内科などの医師が問診等をする際に聞こえにくそうにしている高齢者がいれば、必要により耳鼻咽喉科や補聴器相談医につなぐといったことも必要かと思う。

補足

- ▶ 70デシベル以上の高度難聴者は障がい者として補助があるが、40以下・40～70デシベルの軽度・中度難聴者に対する補助はない
- ▶ 金沢市では2013年度から、18歳未満に対する補聴器の購入・修繕にかかわる補助制度がはじまっている
- ▶ 今年7月末時点で、105の自治体请加齢性難聴に対し、独自の公費補助制度を実施している。

以上を根拠に、金沢市での加齢性難聴に対する公費補助制度の創設を求めました！



加齢性難聴に対する公費補助制度

9月議会質疑概要

- ▶ **広田**「成人や、高齢者についても、命や生活をまもり介護や認知症予防のためにも、助成制度が必要。**本市独自で加齢性難聴に対する補聴器購入の公費補助制度を創設すべきではないか？」**
- ▶ **村山市長**「・ ・ 拡充することは考えてない。なお現在、高度難聴者を対象としている補装具費の給付について、軽度・中等度の難聴者にも対応するように全国市長会を通じて国に対して要望を行っているところだ。」

⇒ つまり、**購入補助の必要性は認めている**

そこで、食い下がって再質問！

加齢性難聴に対する公費補助制度

9月議会質疑概要

- ▶ **広田（再質問）** 「直近の聴力検診で、補聴器が必要な方の12.2%しかつけていない。不自由な生活を強いられ、災害時の逃げ遅れとかも本当に心配。市長は、ランチタイムコンサートを定例化するが、その市長のハーモニーが聞こえない。ぜひ、ご検討をお願いしたい」
- ▶ **村山市長** 「生活の質の確保あるいは認知症への影響なども考慮していくと、何とか考えなければならない。様々な方の生活の質を向上していくのは、私の責務のひとつなので、それに向けてどのようなことができるか研究していくべき課題だ。」

⇒ **研究する！**

研究する！！

